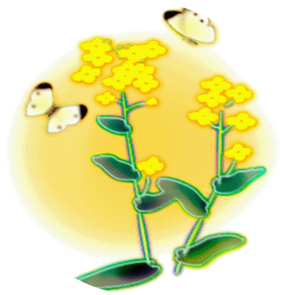
すなお

令和元年５月号

おやのことば

蝶や花のようと言うて育てる中、
蝶や花と言うも息一筋が
蝶や花である。
これより一つの理は無い程に。

明治二十七年三月十八日



会長

【蝶や花のようと言うて育てる中、蝶や花と言うも息一筋が蝶や花である。】

この言葉は、よく聞かせて頂きます。私達は子どもや孫に対して蝶や花のように可愛い可愛いと思い育てていますが、息一筋があるおかげで蝶や花やと言えるのです。

つまり神様の御守護があって命をつないで頂いているから、蝶や花やと言っておられるのです。いくら可愛いと思っても亡くなってしまっては、どうしようもありません。お金があっても権力があってもどうにもなりません。

また、私達は子どもや孫の状態を見て良い、悪いを判断してしまいますが、その子どもや孫が亡くなってしまったとしたら、生きてくれていることがありがたいことと思えます。

そうなってから分かるのではなく、「今」をしっかり喜んで通らせて頂きましょう。

教会ニュース

おやさとパレード出演日決定

今年のこどもおぢばがえりのおやさとパレードの出演日は8月4日、日曜日になりました。こどもおぢばがえりの最終日ということでフィナーレに参加させて頂くことになります。コスミックバンドとしては初めてのことになり、本番に向かって練習を重ねています。おぢばに共に帰らせて頂き、パレードに出演や応援をして下さい。よろしくお願いします。

訃報

4月21日にようぼくの村上高之さんが享年48歳で出直しされました。
23日にお通夜、24日に告別式が行われ、教会関係の皆さん方も参拝して頂きました。

年祭報告

3月17日に光宗鈴子さんの30年祭、光宗清志さんの10年祭が会長祭主のもと自宅にて執り行われました。

婦人会創立110周年 日々の理御供 報告

4月には60,500円を上級葛城へ運ばせて頂きました。2020年4月までつとめさせて頂きますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

瀬戸路分教会エコプロジェクト　～太陽光発電状況～

4月17日検針で2059kWh発電し、80,053円の売電金額となりました。
累計96,467kWh、3,778,520円の総売電金額となりました。

すなお（立教１８２年５月号）

通　巻　No.706
発行所　天理教瀬戸路分教会
794-0007　今治市近見町4-5-10
☎　0898-23-5004
FAX　0898-23-5123
発 行 日　2019.5.16
責任者　二 宮 英 治

修養科生は少し考えてから、こう答えたそうです。

「天理教では、お互いに拝み合いなさいよと教えられているので、四方のどこからでも拝めるように参拝場が造られているのです。参拝者は自分のことだけでなく、『向こう側にいる人も、どうぞたすけて下さい』とお願いします。これが、天理教の神様の思召（おぼしめし）なので、神様は中央の下のほうにお鎮まりくださっているのです」

後日、「この答え方で合っていますか？」と聞かれましたが、、、、残念ながら、満点はあげられません。彼は一番重要な点を忘れています。

それは、親神様は、人間を宿し込まれた元のぢばにお鎮まりくださっている、ということです。参拝場は、ぢばを取り囲むように建てられています。だから、みんな自然と頭を下げて、下へ下へと向かって拝をさせていただいているのです。

私は、この参拝の際の姿勢を通して、親神様は「心を低くして通りなさいよ」と、教えておられるのではないかと悟らせていただいています。

人間誰しも、つい偉そうになって頭が高くなりやすいもの。優しい人、心の低い人は、頭や腰が低いですよね。頭を下げれば腰も下がり、心も低くなります。親神様は「こういうふうにして通るんだよ」と、人間本来の生き方を教えておられると思うのです。

おたすけの場合も、心を低くして掛からせていただくことが、何より肝心です。たとえば、重たい物を動かすとき、その下に一枚の紙を敷いて引っ張ると、上に載った物も一緒にスーッと動きます。人さまに心を変えていただくにはそうやって相手の下へ下へと入るように普段から心がけるのです。

先日、小学生の孫が、「おじいちゃんは偉いね、いつも頑張っているね」と、なぜだか急に褒めてきました。「子供のくせに、何を偉そうに」と思いましたが、そう言ったら負けですから、ここは低い心で「おまえも、かけっこが速いらしいやないか」と褒め返してやりました。子供相手に、と思われるかもしれませんが、わが家はいつもこんな調子で、それが家庭円満の秘訣でもあります。

みなさんも、日々の生活のなかで、自分なりに工夫してみてはどうでしょう。親神様にお喜びいただける、心の低い、優しいようぼくを目指して、お互いに通らせていただきましょう。

一日生涯の心で

鈴　代

淡い恋心に酔いしれた娘のころ
この人と共に生涯を、結婚を心に決めたあの日
次々に授かる我子に母の喜びをかみしめた日も
寝食を忘れて御用に走り回った日も
長い年月、苦楽を共にした夫を見送った日も
言葉に言いつくせぬ様々な日々は
全て今日まで生きてきた私の道すがら

今私は７９歳を迎えた
食べるものは柔らかくなったし
「ヨイショ！」とやたら掛け声も増えたけど
過ぎし日を思い出す度、心が温かくなる
必死に生きた道すがらに、何一つ心残りはない
今日の初夏の風のようにさわやか

なれど、そんな今日も、すぐに過去になる
あんな日もあったねと、やがて懐かしい日々に変わる
二度と来ない今日を、大切な今日を、
神様が下さる全ての与えを素直に受け止めて
喜び味わい、残る人生のページを綴っていきたい
心から教祖、有り難うございますと今日も終わりたい。

なぜ下に向かって拝むの？

前修養科主任　中山　慶純
『朝の信仰読本』から

ある修養科生が、神殿で履物のお世話のひのきしんをしていたときのことです。参拝に訪れた未信者の老夫婦から、次のようなことを尋ねられました。

「天理教の神様は変わっていますなあ。どこの神様も、だいたい拝む人の目線より上に鎮まっておられて、上に向かって拝みますよね。でも、ここではみなさん、下に向かって拝んでいる。これには何か意味があるんですか？」

（次ページへ）